

ガンを知ろう

『ガンを知ろう』

市川治療室 No1./1990.02

1. ガンの現状

ガンは1981年から日本人の死亡原因のトップになり、35歳～70歳の壮年期には死因第二位の心臓病を引き離してその3倍以上の人がガンで亡くなっています。

2. ガンの特徴・性質

ガンはガン細胞が暴れ出す病気であり、この異常細胞は正常細胞が変化して生まれます。

- ガン細胞は正常な細胞の増殖調節が壊れて異常な増殖を示す。
- ガン細胞は細胞本来の「定住地」である臓器（胃・食道・肺など）から逸脱して場所を選ばず増える。
- ガン細胞では細胞本来の機能が失われる。（例・胃ガンであれば胃は胃の機能を失う）

3. 発ガンのメカニズム

細胞を正常に保っているのは細胞の中にある遺伝子です。ガンは正常細胞が異常細胞に変化したものですから、ガンは遺伝子の変異が原因といえます。正常な遺伝子が異常な遺伝子になる段階（発ガンの第一段階）をイニシエーション、正常な細胞が異常な細胞になる段階（発ガンの第二段階）をプロモーションと呼びます。これが発ガンの二段階説です。

4. ガンと活性酸素

イニシエーション・プロモーションの原因物質（発ガン物質）の中でもっとも強力なのは活性酸素です。1980年、米国・オークリッジ研究所のDr.トッターは「人のガンは活性酸素でおこる」という説を発表しました。日本では国立ガンセンター生物物理部長・永田親義博士が「発ガンにおける活性酸素の役割」を明らかにされました。

免疫に活躍する白血球・リンパ球が異物（細菌など）を攻撃するとき、肝臓で薬物代謝をするとき、打ち身・捻挫などの炎症時、食品の脂肪分が酸化した状態の過酸化脂質、喫煙、紫外線、放射線（レントゲン）生体内でのホルモン生産時、エネルギー代謝時などには、必ず活性酸素が発生しています。

5. ガンと免疫

活性酸素のほかに身の回りには発ガン物質があふれているわけですから、ガンにならないほうが不思議ともいえます。遺伝子の異常はたいていの場合には専門の酵素により修正されますし、細胞が異常（ガン細胞）になってもその数が少なければ白血球の仲間が見つけて排除（免疫機構）してしまいます。しかしこれらの機能は加齢と共に減退していきます。

6. ガンの予防・治療

ガンの予防・治療は細胞が異常になる段階、プロモーションの阻止と免疫などの防衛力の強化が大切です。

発ガンの多くは生体内の解毒システムによって消されています。このシステムの主役は鉄酵素で、ビタミンC・E・B2・含硫アミノ酸（卵に多い）の助けが必要です。活性酸素には、

銅・亜鉛・マンガン酵素の他にビタミンE・B2・ベータカロチン・セレンウムが必要です。免疫機能の主役は白血球ですが、白血球はビタミンCが十分でないと活動が鈍ります。

7. ガンとレーガン前大統領

レーガン前大統領が大腸がんであることは殆どの方が知っていますが、その治療方法が栄養療法（ビタミン・ミネラル療法）であるということが、1984年に米国のオクラホマの新聞「ヘフナー・レジャー」に次のように掲載されました。『ガンと老化対策のために以前から栄養療法を採用していたが、特にガンと判明してからは放射線や抗ガン剤による副作用の大きい科学的治療を極力避け、自然療法であるビタミン治療に専念し続けた。』

実際レーガン前大統領が一日に摂取しているビタミン・ミネラルの量は、ビタミンA 37000~70000IU、ビタミンC 6~12g、ビタミンE 400~800IU、セレンウム 400~800mcgとされています。

8. ガン対策

ガン細胞の塊は直径一センチほどにならないと発見されません。その時の細胞数は十億個にもなっています。そしてそこまでに20年近くの年月がかかっています。ガンにならないように、イニシエーション・プロモーションを押さえるように普段から栄養に注意しましょう。ガンの治療に栄養療法を考えると、注意すべきことはビタミンの量なのです。思い切った量を数ヶ月から一年続けることです。